

**市町村指定文化財取材票 《表》**

<b>取材日</b>	2023年	6月	17日	(記入者) 小西和子	
<b>取材参加者</b>	小倉	垣内	久門	小西	島田
<b>取材対象先</b>	天理市：浄土院の木造阿弥陀如来立像、木造阿弥陀如来坐像				

<b>所在地</b>	天理市田部町421				
<b>所有者(取材 対応者)名</b>	浄土院 寺田	0743-63-3222			
	則教住職(個人情報守秘)	PCアドレス			
<b>取材申込</b>	申込先・行政名など：浄土院				
<b>市町村 指定文化財</b>	彫刻	2 軀	木造阿弥陀如来立像、木造阿弥陀如来坐像 ともに2001(平成13)年3月26日指定		
	建造物	棟			
<b>文化財指定理由</b>	木造阿弥陀如来立像：檜材の寄木造りで、穏やかな表現と細かく刻まれた螺髪、厚味の減じた体軀などに平安時代後期から末にかけての特色が伺える。 木造阿弥陀如来坐像：檜材の寄木造りで、頭部内に宿院仏師源四郎の墨書がある。16世紀中ごろの作品と言える。				

**文化財の状況**

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
<b>防火対策</b>	天井に火災感知器が設置され、警備会社の消火器を置いている。火災が感知されると、警備会社に自動的に連絡されるシステムで、万一の対策がなされている。住職夫妻が隣の自宅に居住し、火災には特に気をつけておられる。	警備会社の消火器は据え置き式のものでコイルホースが伸びて移動しながら消火できる。万一の時も初期消火に努めたいという意識が伺えた。
<b>獣害対策</b>	被害は特になし。	1996(平成8)年に建て替えられた本堂は造りもしっかりしており、獣害の心配はなさそうだ。
<b>保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策</b>	本堂は平成8年に立て替えられ、立派な建物という印象。その際、本尊の阿弥陀如来立像も修理されて美しい。近隣の寺院とも連携し、協力し合って毎月のように行事等を行っておられる。近年は墓じまいされる方も出てきて、寺の存在が人々の中で希薄になりつつあるのが気がかりだそうである。	

**取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)**

文化財の維持管理については、問題がない。近年、墓や寺といった存在が人々の心から薄れてきているのかと思われ、また住民の高齢化から行事に参加される人数も減っている。これは多くの寺院においても同様で、社会的な課題であると感じた。

市町村指定文化財取材票《裏》①

取材日	2023年	6月	17日	(記入者) 小西和子	
取材参加者	小倉	垣内	久門	小西	島田
取材対象先	天理市：浄土院の木造阿弥陀如来立像、木造阿弥陀如来坐像				

〈写真撮影許可済み〉

文化財指定名 木造阿弥陀如来立像

文化財（正面写真）	文化財（角度を変えて、写真）
 <p data-bbox="284 891 558 929">安置状態の全体写真</p>	 <p data-bbox="893 891 1168 929">火災検知器・消火器</p>
 <p data-bbox="255 1355 590 1393">文化財の由緒などを記入</p>	 <p data-bbox="718 1355 1334 1393">所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入</p>
<p>浄土院の本尊、檜材の寄木造りで、平安後期の一般的な技法によって制作されている。表現も穏やかで、細かく刻む螺髪、半球形の肉けい部、おとなしい表情、厚味の減じた体軀、はっきりとしているが浅い衣文線など平安後期の彫像の特色が顕著にうかがわれる。12世紀ごろの制作であろう。（天理市教育委員会発行「天理市の仏像」より抜き書き）</p>	<p>浄土宗鎮西派の寺院である。創建は不明であるが、大きな境内墓があり、他宗派の檀家の墓もある。十三仏板碑は天文8年（1539）造立で、大和では二番目に古い。上つ道沿いにある、天理市のほぼ中央、市街地の中にある。</p>

市町村指定文化財取材票<裏>②

取材日	2023年	6月	17日	(記入者)小西和子	
取材参加者	小倉	垣内	久門	小西	島田
取材対象先	天理市：浄土院の木造阿弥陀如来立像、木造阿弥陀如来坐像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 木造阿弥陀如来坐像

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	
山門	本堂内にかけてられた数珠
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入
<p>像高36.4cm、檜材の寄木造りで、衣部は漆箔が施され、玉眼が嵌入されている。後頭部内に奈良大仏師源四郎の墨書があり、宿院仏師源四郎の作であることがわかる。技巧的にこじんまりとまとめられ、ことに整った衣文を細かく鎬だてて刻むところなど宿院仏師の作品らしい。源四郎が活躍した天文期 (1540年前後) の作であろう。(天理市教育委員会発行「天理市の仏像」より)</p>	<p>本堂内にはその周囲を取り巻いてぐるりと数珠がかけられている。一珠一珠に寄進者の名前を彫り込んだもので、「希望者が多く大変長いものになりました」と住職が話された。この数珠は大勢で念仏を唱えながら数珠を繰る念仏行事に用いられるもので、11月10日の「十夜」に檀家の皆さんが集まって念仏を唱える。</p>